

地域ボランティア プログラム

「竹林整備と竹炭・竹笛づくり」

2016/11/20



11月20日(日)、本学の南大沢キャンパス松木日向緑地にて、地域ボランティアプログラムの活動として、竹林整備や竹炭・竹笛づくりを行いました。7人の学生が参加し、「ひなた緑地遊学会」のメンバーにご指導いただきながら活動しました。今回の活動は、次回12月3日(土)に南大沢小学校の小学生を招いて、竹炭づくりや竹笛づくりの体験会を行うため、その際に大学生が小学生に教えるこ



とができるように練習するというねらいもありました。

まず、炭焼き窯の火付けをするところから行い、窯の上に土をかけて熱を逃がさないようにすることや、火を安定させるための作業など、前回教えていただいたことを思い出しながら行いました。

次に、竹笛(うぐいす笛)づくりでは、本体となる細い竹に穴を開け、吹く部分となるもう一つの竹の形を整え、ボンドで貼り付けました。構造やつくる過程はシンプルですが、素材となる竹の形や穴の大きさ、息を吹き込む角度が少しでもズレるときれいな音が出ないので、とても難しく繊細な作業でした。学生たちからは、簡単にはいかないこの作業を通して、「手づくりの良さを感じた」「試行錯誤した点を小学生にも伝えたい」との感想が聞かれました。

今回は、遊学会の方やメンバー同士の交流を深めるために、昼食にBBQを行いました。自然の中で食べる食材は格別に美味しく、みんなで協力して調理し、わいわいと食べる中で、メンバー同士も遊学会の方とも自然と仲が深まりました。学生からは、「人生の先輩の話聞くことができて刺激的だった」という感想が聞かれました。

これまで、3回の活動を行ってきましたが、これまでの活動を振り返る特徴的な感想があったので、紹介します。

加藤先生が「里山は生きるための力を育む場所」と仰っていたが、これまでの活動を振り返り、その通りであると自分でも感じた。竹の伐採や竹笛を作る際に、うまくいわずに躓いたとき、自分で試行錯誤したり、周りの人の助けや教えを求めることが必要な場面が何度もあった。また、この活動では、性別や年齢、立場を問わず様々な人と交流する機会が多くあり、自分一人や限られたグループのみとの付き合いでは得られない楽しさや、そこに全体の活動を活性化させる効果があることも身をもって知ることが出来た。この学びはボランティアでの活動に限らず、あらゆる物事にあてはめることができると思う。

次回は、これまでの活動を活かして、小学生のサポートを行います。